

硬膜外無痛分娩についての説明と同意書

1. 麻酔の方法

- ・硬膜外麻酔または、脊髄くも膜下麻酔を用います。

(硬膜外麻酔は背中から細いカテーテルを挿入して硬膜の外に持続的に薬液を注入する方法です。脊髄くも膜下麻酔は硬膜の中へ、薬液を注射する方法です。両方を組み合わせることもあります。) どちらの方法も、麻酔科専門医が行います。

2. 考えられる副作用や合併症とその対策

- ・陣痛が弱くなる、お産の時間が長くなる →陣痛促進剤の使用、
- ・怒責力の低下 →吸引分娩
- ・胎児の一時的な徐脈 →通常回復するので経過観察
- ・血圧低下、皮膚のかゆみ、発熱

<まれだが起こりうるもの>

- ・麻酔後の頭痛 → ベッド上安静、重症の場合ブラッドパッチ
- ・麻酔の効き過ぎ、局所麻酔薬の過剰症状

<可能性があるが非常にまれなもの>

- ・硬膜外血腫、膿瘍、髄膜炎、神経障害

3. 麻酔をしない分娩との相違点

- ・硬膜外無痛分娩を開始した後は、絶食（水分は可能）、ベッド上安静となります。
- ・点滴、陣痛や血圧の持続モニタリングを行い、尿道カテーテルで導尿します

4. 希望通りのタイミングで無痛分娩が開始できない場合

- ・飲食の直後 (陣痛が 分ごとになったら食事を控えてください)
- ・血小板の減少 (8万/ μ l 以下)
- ・赤ちゃんの元気がない
- ・陣痛が弱い
- ・新型コロナウイルス感染などの感染症、原因不明の発熱時
- ・分娩の集中や緊急対応で人手と設備が確保できない場合
- ・お産の進行が急激で麻酔が間に合わない場合。

(平日の日中以外は、麻酔科医は病院外で待機。到着まで1時間以内)

以上の点について説明を行いました。

説明医師 _____

無痛分娩の方法・起こりうる合併症とその対策について説明を受けました。

計画分娩希望（経産婦のみ）

年 月 日

署名 _____

配偶者などの署名 _____